

Mitutoyo

環境報告書

ENVIRONMENTAL REPORT

2025



精密測定で
社会に貢献する

株式会社ミットヨ

環境方針

ミットグループは、「精密測定で社会に貢献する」を経営理念として掲げ、サステナビリティを重要な経営テーマとし、持続可能な社会を目指しています。気候変動をはじめとした地球環境課題の解決にも貢献し、社会で必要とされる会社になることをさらに追及していきます。

ミットヨ行動指針

「Mitutoyo Green Challenge」



1. 気候変動への対応

気候変動の要因である温室効果ガスの排出を削減するため、省エネ活動等を全社で推進し排出量を削減していきます。

2. 資源循環型社会の実現への貢献

有限な資源である水資源・天然資源を有効に活用し、廃棄物についても 3R (reduce, reuse, recycle) を推進し排出量の削減を進めます。

3. 環境に配慮した製品・サービスの提供

全ライフサイクル (調達、製造、輸送、使用、廃棄) において環境を考慮したものづくり、サービスを提供していきます。

4. 製品・化学物質の安全確保

有害な化学物質の排出量抑制のため、代替品への変更や使用量削減を実現し、提供する製品・サービスでの安全を確保していきます。

5. 自然環境・生物多様性への配慮

豊かな生活や事業の基盤となる地球の自然環境と生物多様性を維持していくための企業として、対応可能な保全活動を推進していきます。

6. 環境マネジメントシステムの構築・維持

事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を低減させるために、環境マネジメントシステムを構築・維持し、環境負荷を低減していきます。

制定：2012年 12月10日

実施：2025年 1月 1日

環境目標 (2025年度)

ミットグループは、2025年1月に環境方針を改訂いたしました。

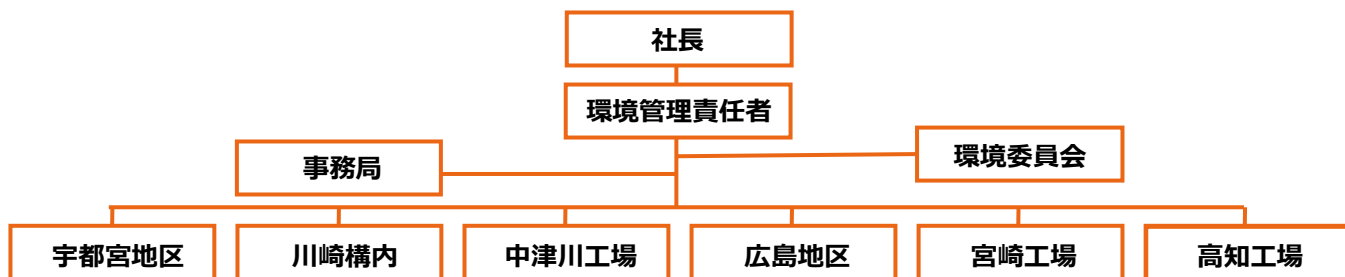
従来の環境目標に資源循環の項目とし、【プラスチック排出量削減】、【水質汚濁防止】を加え、

以下5項目について環境目標を設定し環境負荷低減に向けた取り組みを進めております。

- 省エネルギーの推進 (原油換算エネルギー使用量を生産高原単位にて評価)
単年度目標：2024年度を基準に2%削減
- 廃棄物排出量の削減 (廃棄物排出量を生産高原単位にて評価)
単年度目標：2024年度を基準に2%削減
- 二酸化炭素排出量の削減 (Scope1・2)
単年度目標：2024年度を基準に2%削減 中期目標：2030年までに2018年度を基準に50%削減
- プラスチック使用量の削減
単年度目標：2024年度を基準に2%削減
- 水質汚濁防止
排水自主管理基準超過「0」件維持 ※法定より厳しい基準値設定

環境マネジメント体制

ミットグループの環境マネジメントを効果的に実施するため、以下の組織体制で環境保全活動に取り組んでいます。



報告範囲・対象期間

この報告書は、ミットグループの2024年度（2024年1月度～12月度）の環境保全の諸活動についての報告書です。

対象範囲：ミットグループ 国内6拠点

- ・宇都宮地区（測器工場、MC工場、清原工場）
- ・川崎構内（本社、川崎工場）
- ・中津川工場
- ・広島地区（呉工場、志和工場、郷原工場）
- ・宮崎工場
- ・高知工場

ISO14001認証

ミットグループは、社会と共生できる企業をめざし、環境保全活動に積極的に取り組んでおります。

2012年までは事業部門ごとに自主的な環境マネジメントシステムを構築しておりましたが、より一層環境負荷を低減させるため、2013年より全社で一貫した環境マネジメントシステムを構築し、ミットヨ全体でISO14001の認証を取得いたしました。

登録証は、ミットヨホームページ 環境への取組みに掲載しております。

<https://www.mitutoyo.co.jp/corporate/sustainability/ecology/>

審査風景



内部監査

他サイトの監査員が別サイトへ出向き監査を行うサイト間相互監査を実施しており、2024年度は宇都宮地区（清原工場）、広島地区（志和工場）で実施しました。

サイト間相互監査の目的：

監査業務のレベル合わせと、他サイトの実例をふまえ業務改善提案につなげる。

2025年度 相互監査実施サイト：予定

宇都宮地区（測器工場）、広島地区（呉工場・志和工場（郷原））

環境マネジメント教育

環境マネジメントシステムを効果的に運用するため、次のような環境教育を実施しています。

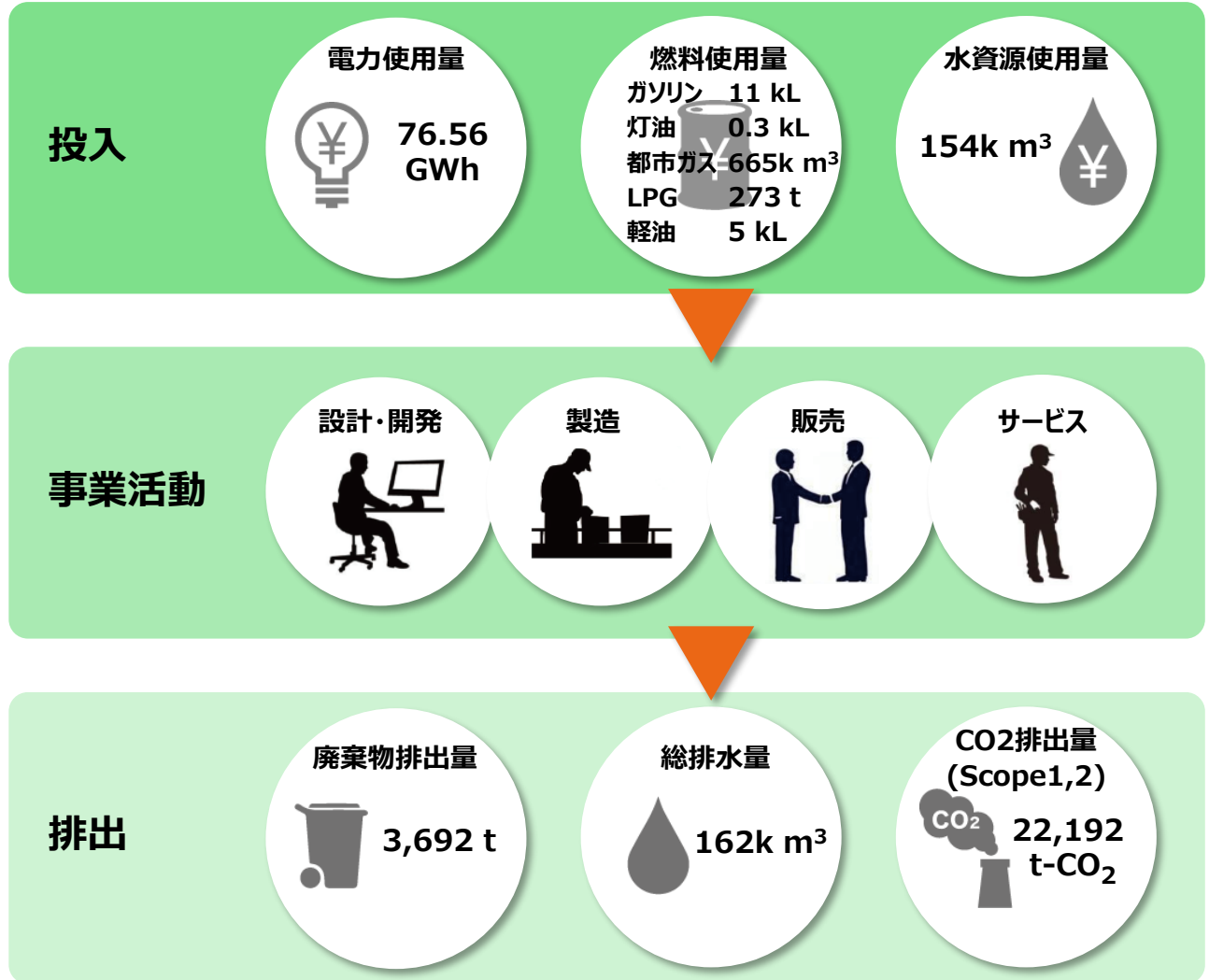
2024年度教育実績

教育名	対象者	受講者数	延べ時間（分）
新規環境教育	新入社員・中途採用者	178	8,120
一般教育	全社員（役員・関連会社社員等含む）	3,661	148,780
力量確保のための教育	特定作業従事者	235	41,640
内部監査員教育	内部監査員	29	4,380
計		4,103	202,920

事業活動と環境負荷

環境負荷全体像

ミットヨグループの事業活動による環境負荷の全体量は、次のようになっています。



拠点ごとの環境負荷量

ミットヨグループ6拠点における2024年度環境負荷量は次のようになっています。

項目 (単位)		拠点						
		宇都宮地区	川崎構内	中津川工場	広島地区	宮崎工場	高知工場	
投入	燃料使用量 (原油換算) (KL)	27	667	5	432	4	16	
	電力使用量 (GWh)	34.35	9.30	3.93	20.94	4.14	3.90	
	水資源使用量 (K m ³)	43	69	8	26	5	2	
排出	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	53	4,916	1,812	12,507	1,980	924	
	PRTR物質排出量 (大気) (kg)	67	1,283	0	976	2,311	0	
	総排水量 (K m ³)	47	77	7	23	5	2	
	廃棄物排出量 (t)	871	230	49	2,403	82	57	

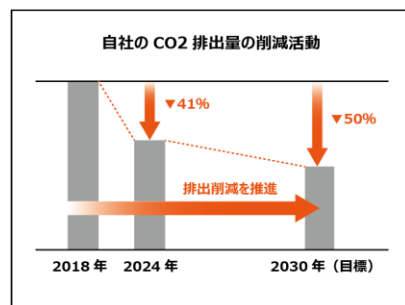
カーボンニュートラルの実現に向けて

1.コミットメント

ミトヨグループは、地球規模での気候変動問題に対して企業としての責任を果たすべく2050年のカーボンニュートラルに向けて脱炭素社会の実現に貢献していきます。

- 2030年までに自社のCO₂排出量（Scope1,2）を2018年比で50%削減します
- 2022年9月にTCFD*提言への賛同を表明しました。

*TCFD:気候関連財務情報開示タスクフォース
(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)



TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

2.具体的な取り組み

ミトヨグループは、世界一競争力のある「Made in Japan」のモノ作りを支えるべく、「再生エネルギーの活用」と「省エネかつ生産効率の高い設備導入」を積極的に推進しています。

今後も高まる精密測定機器の需要にお応えしながら、バリューチェーン全体でのCO₂削減を更に加速していきます。

取り組み事例

宇都宮地区と高知工場で水力発電100%のCO₂フリー電力への切り替えを進めています。



環境負荷低減への取り組み

1.エネルギー使用量削減への取り組み

電力、燃料などエネルギー使用の合理化を推進するため、設備の更新を機会に省エネタイプの設備への切り替えや省エネシステムの充実を図っております。

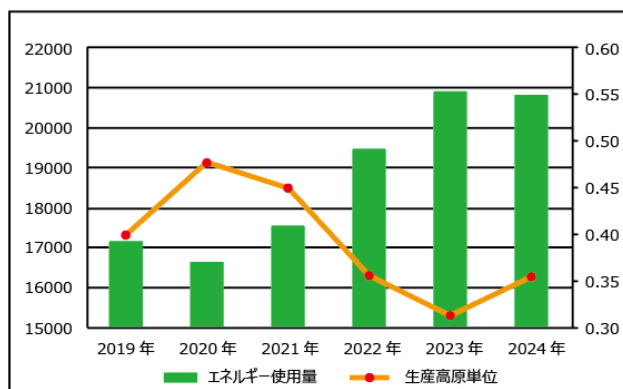
また、事業活動における改善活動を通じ、エネルギー使用の効率化を図っております。

省エネに関わる主な設備投資

- ・省エネ型コンプレッサーの導入及びエア監視システムの導入
- ・高効率空調システムの導入及び空調仕様の見直し
- ・電力監視装置の導入
- ・太陽光発電システムの導入
- ・照明器具のLED化
- ・EV車両の導入

省エネに関わる主な改善活動

- ・製造品質向上による廃棄部品の減少及び作業の効率化
- ・生産変動に対応した生産ラインの構築
- ・IT化による紙文書の削減及び業務効率の向上
- ・大型機器の梱包資材再利用促進



2. 廃棄物の再資源化とリサイクルへの取り組み

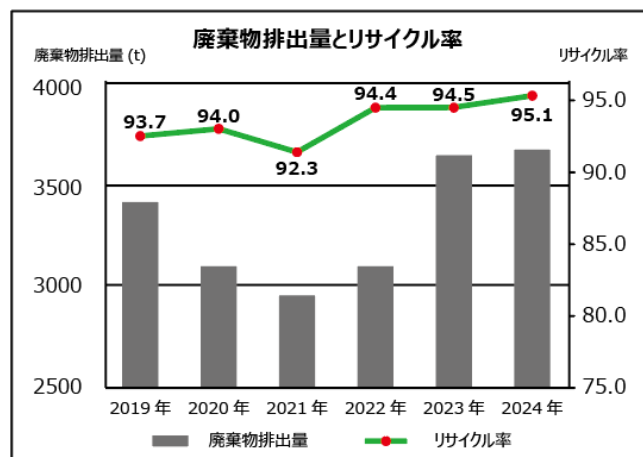
ミットヨグループは、廃棄物の有価化、減量化、再資源化を推進しております。

廃棄物減量化の主な取り組み

- ・部品運搬箱の通い箱化
- ・専用運搬治具の採用、包装梱包材の再使用
- ・購入品容器の返却（ペール缶、ドラム缶）
- ・防腐剤、浮上油分離装置によるクーラント液の長寿命化
- ・使用済み事務用ファイルなどの再利用化
- ・梱包用木箱の国内、輸出共用化
- ・使用済みパソコンを専門会社に売却
- ・加工機械を素材別の専用化し、切粉をスクラップ売却
- ・廃食用油を専門会社に売却 * SAF化（航空機燃料）

リサイクル率向上への主な取り組み

- ・社員食堂からの食品ゴミを飼料化し食品ロス低減
- ・廃プラスチック類 ⇒ マテリアル、サーマルリサイクル化
- ・運搬用の木材パレットを処理業者で破砕・チップ化をし製紙原料又は燃料に使用
- ・研削汚泥の圧縮ブリケット化 ⇒ 再資源化
- ・スケール製造装置のエッチング廃液を再生使用
- ・イオン交換塔で排水のリサイクル（純水に再生してラインに戻す）
- ・排水処理のクローズド化による再利用（メッキライン、スケール製造、ウォータージェットカッタ）
- ・使用済砥石のメーカーへの返却によるリサイクル化



3. 川崎構内における土壌・地下水対策の取り組み

川崎構内では、1991年に土壌、地下水汚染が確認されて以降、地下水の揚水による敷地外流出防止および地中ガス真空抽出を行い、浄化に努めております。また、敷地全域（調査実施が困難なエリアを除く）を対象として、2008年2月より表層ガス調査並びにボーリング調査を実施し、2008年8月川崎市へ今後の対応計画と合わせて報告を行っております。現在までの対策の経過については以下の通りです。

	物質名	対象	基準値 (mg/L)	構内最大濃度 (mg/L)	
				2008年8月*	2025年1月現在
揮発性有機化合物 (VOC)	テトラクロロエチレン	地下水	0.01	170	8.3
	トリクロロエチレン	地下水	0.03	15	0.72
	シス-1,2-ジクロロエチレン	地下水	0.04	20	3.3
重金属類	六価クロム化合物	地下水	0.02	0.41	0.01

* 2008年環境報告書にてご報告した数値です。

今後も継続して、川崎市のご指導を仰ぎながら、更に土壌・地下水の改善に取り組んでまいります。

ミットヨグループは、環境に配慮した製品の開発に取り組んでおり、2024年度に出荷した主な環境配慮型製品を以下にご紹介いたします。

高精度デジタル測長器 ライトマチック



VL-50-B

VL-50S-B

Mitutoyo

●製品の概略

- ・測定力の影響を受けやすい、ワークの厚さ・高さ測定に最適
- ・超硬球面測定子を用いた低測定力の測定で、フィルムのような柔らかいワークの厚さも、変形を気にせず高精度に測定

●環境配慮型としての達成内容

- ・RoHS指令 (EU)2015/863に対応 (化学物質規制対応)
- ・従来製品から電源ラインに保護回路を追加することで、故障リスクを軽減 (長寿命化)
- ・他製品と同系統の塗装色を採用した事で塗装の管理工数が低減

白色光干渉対物レンズ WLI Plan Apo シリーズ (2.5x/10x/25x/50x)

小型顕微鏡ユニット VMU-S



2.5x

10x

25x

50x

VMU-S

Mitutoyo

●製品の概略

白色光干渉対物レンズ **WLI Plan Apo シリーズ**

- ・小型軽量な同焦60mm対物レンズ (2.5x ~ 50x)
- ・広視野 (従来比4倍) と鮮明な干渉縞コントラストを両立

小型顕微鏡ユニット **VMU-S**

- ・小型軽量で広視野 (従来比4倍)

●環境配慮型としての達成内容

- ・RoHS指令 (EU)2011/65、PFOS規制 (EC)2006/122、REACH規制 1907/2006 に対応した原材料の使用 (化学物質規制対応)
- ・レンズのガラス材料に全て鉛・ヒ素フリーガラスを使用 (環境配慮素材の採用)
- ・QV-WLI対物レンズと比較して、約2/3小型化と、1/2の軽量化を実現 (省資源化)

明視野用赤外線補正 対物レンズ M Plan Apo NIR HR 20x



Mitutoyo

●製品の概略

- ・可視域から遠赤外域におけるアプリケーションに対応
- ・高分解能な明視野観察 (可視域および近赤外域観察)、およびYAGレーザー (1064nm/532nm) による切断加工が可能
- ・他社と比べてNA0.6の高NA仕様 ⇒ 同クラスの倍率において高分解能な観察が可能

●環境配慮型としての達成内容

- ・RoHS指令 (EU)2011/65、PFOS規制 (EC)2006/122、REACH規制 1907/2006 に対応した原材料の使用 (化学物質規制対応)
- ・レンズのガラス材料に全て鉛・ヒ素フリーガラスを使用 (環境配慮素材の採用)
- ・同対物レンズシリーズ (NIR HR シリーズ) と比べて、レンズ使用枚数を1枚削減 (省資源化)

環境配慮型製品

ミトヨグループは、環境に配慮した製品の開発に取り組んでおり、2023年度に出荷した主な環境配慮型製品を以下にご紹介いたします。

クーラントプルーフ ABSデジマチックインジケーター



ID-N

ID-B

Mitutoyo

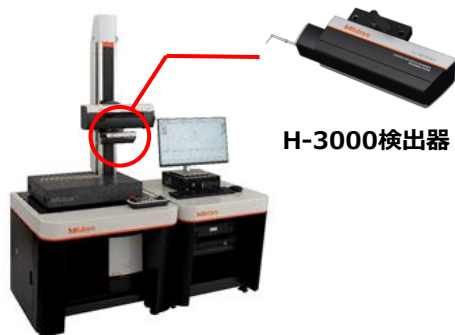
●製品の概略

- 世界最小幅35mmのスリムボディに防水・防塵保護等級IP66、多くの機能を搭載したデジタルインジケーター
- インジケーターでは最高クラスの防塵・防水保護等級IP66と耐油性を実現
- 多点測定を有利にする幅35mmのスリム形状
- ID-Bは、スピンドルに対して表示部を見やすい垂直位置に配置したオンリーワン商品

●環境配慮型としての達成内容

- 低消費電力設計による電池の長寿命化：1年→5年（省エネ）
- シール部へのパッキンの採用（リサイクル性向上）
- RoHS指令（EU）2011/65、PFOS規制（EC）2006/122、REACH規制 1907/2006 に対応

FORMTRACER Avant FTA-H3000



H-3000検出器

Mitutoyo

●製品の概略

- 粗さ測定、輪郭測定を1つの検出器で可能なH-3000検出器を搭載した粗さ輪郭測定機、ワントレースで粗さと輪郭の評価が可能
- H-3000検出器は、クラス最高の高分解能0.3nm、高精度±(0.5+|0.02H|)μm、ワイドレンジ16mmを実現
- スタイラスラインナップの拡充により、幅広い測定シーンに対応
- スタイラスは検出器にワンタッチで装着可能で、工具レス化を実現
- H-3000検出器は、従来のFTAシリーズに増設可能

●環境配慮型としての達成内容

- 取説のCD化による紙使用量の削減：2kg→0.5kg（省資源）
- 除振台のオプション化による梱包台座（木材）の使用量を削減：5kg→3kg（省資源）
- 樹脂カバーへの材料名表示を実施（リサイクル性向上）

ミットグループでは、環境保全活動にかかわるコストと効果を定量的に把握するため、環境省のガイドラインに準拠したかたちで環境会計をまとめています。

環境保全コスト

2024年度の当社における環境保全コストは、投資、費用の合計で約1,135百万円でした。

主な投資は、照明のLED化や空調機器等の更新で約289百万円、費用は廃棄物のリサイクル処理費用、排水処理施設管理費用など全体で約844百万円となっています。

単位：千円

環境保全コスト				
分類	主な取り組みの内容		投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト			280,226	614,938
内訳	(1)-1 公害防止コスト	水質汚濁防止や騒音防止のためのコスト	135,759	90,650
	(1)-2 地球環境保全コスト	地球温暖化防止のためのコスト / 省エネルギーのためのコスト	136,191	378,894
	(1)-3 資源循環コスト	廃棄物のリサイクル、処理、処分のためのコスト / 資源の効率的利用のためのコスト	8,276	145,394
(2) 上・下流コスト			0	4,997
(3) 管理活動コスト			9,596	222,875
(4) 研究開発コスト			0	0
(5) 社会活動コスト			0	1,877
(6) 環境損傷対応コスト			0	0
合計			289,821	844,688

環境保全効果

環境保全効果						
環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標 (単位)		前期 (基準期間)	当期	基準期間との差 (環境保全効果)	
事業活動に投入する資源に関する 環境保全効果	エネルギー投入量	電力	MWh	77,222	76,563	659
		燃料 原油換算	KL	1,120	1,142	-22
	水資源投入量		千m ³	146	154	-8
事業活動から排出する環境負荷 及び 廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量		t-CO ₂	26,110	22,190	3,920
	廃棄物等総排出量		t	3,653	3,691	-38
	廃棄物最終処分量		t	290	258	32
	総排水量		千m ³	152	162	-10
事業活動から産出する財・サービスに 関する環境保全効果	木材使用量		t	208	202	6
	発泡スチロール		kg	0	0	0

環境保全対策に伴う経済効果

単位：千円

効果の内容			
収益	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクル等による事業収入		11,810
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費の節減 (電力・燃料等の購入費)		-49,766
	省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減		18,624
	その他		22,484
合計			3,152

* 環境保全対策に伴う経済効果については、確実な根拠に基づいて算出される経済的效果のみを表しており、理論値に基づく経済効果は含みません。

Mitutoyo

お問い合わせ先
株式会社ミットヨ 本社総務部
〒213-8533
神奈川県川崎市高津区坂戸1-20-1
TEL : 044-813-8201
FAX : 044-813-8210
ホームページ : <http://www.mitutoyo.co.jp>

